

投稿月日	平成29年7月11日
タイトル	学校のみんなで田植えをしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年6月8日（木）福山市立金江小学校全児童118名が、金江小学校のすぐ近くの田んぼで田植えをしました。金江小学校は水土里ネット福山の「南部工区」という地区にあり、昭和43年度から昭和45年度に当時の南部土地改良区が事業主体となり「ほ場整備事業」が施行された地域です。近年も排水機や揚水機の保全等土地改良事業を施行しており、小学校の農業体験も水土里ネット福山の役員や組合員が積極的に取り組んでいます。

水土里ネット福山の小川正光総代が管理するほ場300㎡で田植えをしました。すぐ近くの小学校から歩いてほ場まで子ども達がやってきました。田んぼは植えやすいようにと水位を下げて土が見えるようにしてありました。

子ども達は田植えを楽しみにしていたそうです。まずは3年生、続いて4年生が田植えをしました。田んぼへ入り、はえ縄の印にあわせて苗を植えていきます。田植えに慣れていてドンドン植えて、まだまだ植えたいようでしたが渋々田んぼから上がっていました。

続いて2年生が田植えです。去年は6年生と一緒に植えたので自分達だけで植えるのは初めてです。小川さんが、苗を3本取るやり方や植える時、親指、人差し指、中指の3本で持って植え、土の中で親指を離すように教えておられました。元気一杯の2年生はしりもちをついたり、首に巻いたタオルを田んぼの中に落としたりして泥だらけになっていました。



続いて、1年生と6年生と一緒に田んぼに入ります。6年生は1年生の手をひいて、ゆっくりと入っていました。1年生は、まだ小さく歩くだけでも大変そうで、しりもちについて涙がでちゃう子もいましたが、6年生に教えられ、植え方も上手になりました。

最後は5年生が田植えです。5年生は1年を通じて稲作に携わるため、すでに籾蒔きをして苗を育苗していました。田植えも慣れたものであつと言う間に終わりました。田植えを終えると5年生が左右に分かれて畦から薬を撒きました。田植えをしている時からタニシがよってきていたので、すぐに撒くことにしたそうです。

小川さんが5年生に「苗は何センチに成長していたかな。」と尋ねると「8センチ！」と元気に答えました。今年は温度が低い日が多く少し苗の成長が遅く、例年より短い苗だったので低学年は少し植えるのが難しいようだったと話されました。





田んぼから上がった子ども達は、近くの用水路で手足の泥を流して学校へ帰っていきましました。

便利な面もある用水路ですが、転落などの危険もあるため、子ども達に水路への転落防止の呼掛けのチラシと災害備蓄飲料水「福山の水」を配布しました。

田植えが終わると学校の校庭へ地域の方と5年生が集まり、交流する場が設けられました。地域の方へ元気一杯、大きな声で感謝の気持ちを伝えました。

地域の方と話をしたり、肩をたたいてあげたりして和気あいあいと微笑ましい場になっていました。5年生はこれから稲の成長を観察していくそうです。



小川さんのお米作りの指導は、専門的で5年生には難しいのかなと思いましたが、「今日の5年生はしっかりしていてよかったよ。」と褒めておられ、5年生が一生懸命教えていただいたことに応えていることが分かりました。

5年生のみんなには、これから収穫まで頑張ってもらいたいです。



金江町では、水土里ネット福山の役員、組合員が大変積極的に農業体験に取り組んでおられ、これから稲刈りまで指導をされるそうです。水土里ネット福山は、この取り組みに協力することで、21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。